

みしま野

せきだみょうじんじや 関大明神社

古(いにしえ)より街道には関所が設けられ、行き交う人々や荷物の監視機能を果たしてきた。関西では東海道の鈴鹿関(現在の関市)や小倉百人一首でも詠まれた逢坂の関が有名であるが、京都と大阪の県境にも「山城の関」とも呼ばれる山崎の関があった。

平安時代の初めには山崎の関は廃止され、その跡地に関戸院と呼ばれる公営宿泊施設が設けられたとされている。関戸院には、高野山・四天王寺への参詣の帰途に関白藤原道長が立寄ったとされる記録が残っており、また木曾義仲に追われて西へ落延びる安徳天皇が此処から石清水八幡宮へ向かって無事に京へ帰還できる様に祈願した場所でもあるとされている。関大明神社はこの関戸院の後身であるとする説もある一方で、奈良時代から平安時代に掛けて、この辺りでは病氣流行の度に疫神祭が執行されており、そ



上：本殿と見紛うばかりの覆屋
左：島本町が建てた案内板(これが無ければ社殿の名称も覚えにくい)

所在地：三島郡島本町山崎 1丁目 5-10
最寄駅：JR山崎駅下車 西へ徒歩約2分
若しくは阪急京都線大山崎駅下車 徒歩約5分
境内には入れますが、社殿内には入れませんのでご注意ください。
TEL：075-962-0792 (問合せは島本町教育委員会へ)

の折に疫神として祀った関守神や境の神(辻神)を祭ったのが関大明神社の始まりともされている。更には伯耆国・大山の大智明神を祭ったのが始まりともされており、関大明神社の草創並びにその由来については未だに詳らかではない。

現在、西国街道の路傍に佇む関大明神社の本殿は、室町時代中期に創建されたと伝えられており、大阪府の重要文化財に指定されている。木造平屋建て、棧瓦葺、素木造りの簡素な覆屋に囲まれた本殿は、覆屋の正面に「関大明神」と書かれた提灯が掲げられていなければ通り過ぎてしまう程に小振りである。本殿に散見できる建築様式は瀟洒でありながら簡素で大振りな趣を併せ持つ。覆屋に阻まれて近くに寄って見る事は出来ないが、樺風の年輪が入った素木造りの柱が年代の移ろいを語りかけてくれる。(神保 勲)